

論文の内容の要旨

論文題目 DPC データを利用した日本の摂食障害に関する臨床疫学研究

氏 名 道端 伸明

摂食障害は、精神疾患の一つで身体・心理・社会的な障害を伴う。特に低栄養により様々な身体的合併症を引き起こす神経性やせ症が問題になる。初期治療では栄養療法が重要となる。しかし、治療初期は患者本人が食事を摂ることへの強い恐怖や拒否があり、自発的に経口摂取を行うことはしばしば困難である。本研究は、摂食障害の補助栄養療法である経管栄養と中心静脈栄養のどちらが副作用が少なく、治療効果が高いかを一般社団法人診断群分類研究支援機構の Diagnosis Procedure Combination データを用いて明らかにすることを目的とした。本研究では、2010 年から 2013 年までの期間に、摂食障害と確定診断された患者を抽出し、年齢が 10 歳未満あるいは 60 歳以上、body mass index が $5\text{kg}/\text{m}^2$ 以下あるいは、 $17\text{kg}/\text{m}^2$ 以上、脳性麻痺の患者を除外した。その上で経管栄養群と中心静脈栄養群の間で、院内死亡割合や身体合併症割合、入院期間について比較検討した。統計手法は、院内死亡には、2:1 傾向スコアマッチング解析と inverse

probability of treatment weighting 法を、入院期間には、Cox 回帰分析をそれぞれ使用した。結果は、経管栄養群と中心静脈栄養群との比較では、入院期間には有意な差は無かったが、中心静脈栄養群では経管栄養群に比べて、院内死亡割合や身体合併症割合が大きかった。